

ONE PIECE

ビンクスの酒

1. ビンクスの酒

歌: 麦わらの一味 (田中真弓、中井和哉、岡村明美、山口勝平、平田広明)
大谷育江、山口由里子、矢尾一樹、チョー

2. 幸せの黒いハンカチ

歌: ブルック (チョー)

3. A THOUSAND DREAMERS

～9人の麦わら海賊団篇～

歌: 麦わらの一味 (田中真弓、中井和哉、岡村明美、山口勝平、平田広明)
大谷育江、山口由里子、矢尾一樹、チョー

4. ビンクスの酒 (カラオケ)

5. 幸せの黒いハンカチ (カラオケ)

6. A THOUSAND DREAMERS

～9人の麦わら海賊団篇～ (カラオケ)

「ビンクスの酒」ができるまで



ビンクスの酒とは?

海賊たちの間で古くから伝えられている歌。ブルックが好んで歌う曲であり、くじらのラブーンのお気に入りでもある。歌う者の気分によって、曲の雰囲気が大きく変わり、誰でも簡単に歌えるのが特徴だ。

ブルック➡

ルフィたちの9人目の仲間。かつてルンバー海賊団の一員で、航海の途中で海賊団は全滅し、自身も死んでしまう。だが、ヨミヨミの真の能力によってガイコツの姿で蘇った。その後、王下七武海のゲッコー・モリアによって影を奪われて、「魔の三角地帯」をひとり彷徨っていたところをルフィたちと出会う。そのことがきっかけで、麦わらの一味に音楽家として加わり、行動を共にするようになる。

タイトル

ピンクスの酒という題の曲が、僕のiPodには6年前から入ってます。田中公平さんの声で歌われた原曲です。1000回は聴いてると思います。歌詞完成まで時間はかかりましたが、かかった分、いい言葉を集める事ができたので歌詞全体に満足しております。一生懸命作ったけど、ていねいには歌わないで欲しいんです。喚くもよし、何も考えず口遊ぶもよし、どんな感情にも対応ができるのがこの楽曲の凄い所。気の向くままに海賊は歌うのです。

尾田 栄一郎

ピンクスの酒

作詞：尾田栄一郎／作曲：田中公平／編曲：浜口史郎

ヨホホホ ヨホホホ ×4

1. 港の唄

ピンクスの酒を 届けにゆくよ
海風 気まかせ 波まかせ
潮の向こうで 夕日も騒ぐ
空にゃ 輪をかく鳥の唄

2. 船出の唄

さよなら港 つむぎの里よ
ドンと一丁唄お 船出の唄
金波銀波も しぶきにかえて
おれ達やゆくぞ 海の限り

3. 海の唄

ピンクスの酒を 届けにゆくよ
我ら海賊 海割ってく
波を枕に 寝ぐらは船よ
帆に旗に 蹴立てるはドクロ

4. 嵐の唄

嵐がきたぞ 千里の空に
波がおどるよ ドラムならせ
おくびょう風に 吹かれりゃ最後
明日の朝日が ないじゃなし

ヨホホホ ヨホホホ ×4

5. 別れの唄

ピンクスの酒を 届けにゆくよ
今日か明日かと宵の夢
手をふる影に もう会えないよ
何をくよくよ 明日も月夜

6. 行く船の唄

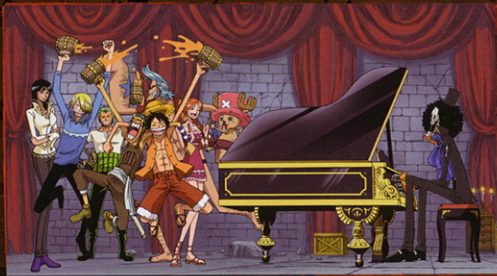
ピンクスの酒を 届けにゆくよ
ドンと一丁唄お 海の唄
どうせ誰でも いつかはホネよ
果てなし あてなし 笑い話

ヨホホホ ヨホホホ ×4

幸せの 黒いハンカチ

作詞：尾田栄一郎／作曲：田中公平
編曲：田中公平

白いハンカチ
見つかるなヤツに
にげろ
白いハンカチ
つかまるなタコに
それスミだ イカも来たぞ
またスミだ
白いハンカチ
スミだらけ幸せの黒いハンカチ



A THOUSAND DREAMERS

～9人の麦わら海賊団篇～

作詞：藤林聖子／作曲：田中公平／編曲：多田彰文

1-10-100 サウザンド!

サヨナラの涙 出逢いのうれしさ
バトンのように つないでこれから
旅は続くんだ 新しい仲間と

キミに出来ること オレ得意なこと
宴みたいに 持ち寄ったなら
世界新記録 毎日更新だ

飛ぶ。船が飛ぶ。
(前代未聞 聞いたことナイ
そこらあたりが イット サウンズ ナイス!)
風つかまえて青空
独り占めさ 君もおいでよ

1-10-100 サウザンドサニー号 Fly High
勇敢な 船の魂 引き継ぎ
Brand-new-ship ちよっくらLet's get it on!
嵐も乗り越えて 千の海を越えて
見果てぬ夢のその果てまでも
飛べ Fly Highサウザンドサニー号

大きいぜ太陽 手に入れてみたいよ
バルーンみたいに 膨らんだ夢
運んでおくれよ みんな分ガツんと

陽気に笑えば 明日もハレルヤ
ピンチはいつも 逆転のチャンス
気合い一発で いつも最高だ

出る。何か出る。
(奇想天外 船から出る
そんな魅力がイット サウンズ クール!)
まだ見たこともない海
漕ぎ出すのさ 君もおいでよ

1-10-100サウザンドサニー号 Fly High
痛快な 船の未来 ドキドキ
Brand-new-ship ちよっくらLet's get it on!
夢が叶う日まで 毎日だってパーティ
世界の果てのその先までも
行け Fly Highサウザンドサニー号

1-10-100 サウザンド!

1-10-100 サウザンドサニー号 Fly High
勇敢な 船の魂 引き継ぎ
Brand-new-ship ちよっくらLet's get it on!
嵐も乗り越えて 千の海を越えて
見果てぬ夢のその果てまでも
飛べ Fly Highサウザンドサニー号
サウザンドサニー号 Fly High

ピンクスの酒はこうして作られた!!

ピンクスの酒作曲

東映アニメプロデューサー

田中公平&清水慎治スペシャル対談

「ピンクスの酒」を手掛けた作曲家の田中公平さんに、この曲ができるまでの秘密を東映アニメのプロデューサー・清水慎治さんと交えて語っていただけることに!!

長い年月を経て完成した曲だった!?

——「ピンクスの酒」を作ることになった経緯を教えてくださいませんか?

清水/ 尾田栄一郎先生の構想の中で、早い段階から音楽家が仲間になることは決まっていたそうなんです。2002年の原作がちょうど「空島篇」に入った頃で、アニメだと「アラバスタ篇」の中盤だったかな。その時に今後のストーリーについて伺った際に尾田先生から「原作で海賊の歌を出すから曲を作って欲しい」とおっしゃって、それでしたら田中公平さんに頼みましょうという話になりました。それで、この曲はいつ頃使いますかと聞いたところ「そんな先ではない」とおっしゃっていました(笑)。

一同笑

清水/ ですので、急いで公平さんにお話をしました。その時に尾田先生は、公平さん宛にメモを手紙でお送りしていました。公平さんはすぐに曲を作ってこられましたよね。

田中/ 大体一週間くらいですね。

清水/ そのデモテープを尾田先生に渡して、「考えます」とおっしゃってから、延々と4・5年くらいですかね?(笑)

一同笑

田中/ 2007年の春頃に、いきなり尾田先生から携帯電話のメールで「やっと実現するようになりました。全ての歌詞を書きます。よろしく」と連絡が来ました。それで、ちょっと歌詞の修正のやり取りを何回かして完成しました。原作でブルックが初登場の時に少しかけていますけど、あの頃にはまだ1巻の歌詞しか完成していなかったと思います。



—— 尾田先生からこんな曲にしたいという注文はありましたか?

田中/ 「楽しくて短くみんなで歌える」という具体的な依頼があったのでありがたかったですね。曲のイメージを描く時に、手紙に添えられていたイラストが非常にタメになりました。船員が甲板を掃除しながら鼻歌混じりに歌っているイラストです。行進曲みたいにキッチリした曲ではなく、酔っ払いながらも歌えるような少しふわふわした感じの歌がいいのかなと思って作りました。最初に尾田先生が書かれた歌詞と、今の歌詞とは随分違っています。尾田先生から「歌詞は変えても構わないので、曲の雰囲気やメロディを重視して欲しい」と書いてありましたので、曲を優先して作りました。

清水/ デモテープを尾田先生に送った時は、とても喜んでもらえましたよ。「こういうことです! こういうイメージです!」ありがとうございました!!とおっしゃっていました。

田中/ 僕のメールにきましたよ(笑)。最初にいただいた手紙には、「音楽家は多分ギター持っています」と書いてあったので、ギターのつもりで曲を書いたんですよ。でも原作が進むにつれて、「ギターじゃなくてバイオリンじゃん」みたいなことになりまして、ちょっとビックリしました(笑)。曲を作った時にピアノで弾いたバージョンのデモテープを尾田先生にお渡ししたので、原作でブルックがピアノを弾いて歌ってくれたのは嬉しかったです。

清水/ 先生のイメージが膨らんだのかもかもしれませんね。

田中/ 男性と女性と一緒に歌う曲のキーの設定は難しいんで



すよ。どちらも歌える音の高さは1オクターブくらいしかないで、その音域の中だけで作曲することに気がつけました。尾田先生に音楽家の性別を伺ったら「多分男です」と答えていただけたので、男性の高さに女性が含まれるイメージで作りしました。あとで見た時に音楽家がガイコツで驚きましたけど(笑)。チョーさんの声はいいですよ。

チョーさんに助けられて名曲に!!

——ブルック役にチョーさんを選んだ理由は何ですか?

清水/ チョーさんの場合は、以前に何回かゲストで出演していた時から「ONE PIECE」の雰囲気にとっても合うんですよ。それで絶対にこの人だと思ってお願いしました。

田中/ 歌が上手いんですよね。それも知っていたのですか?

清水/ いや、知らない(笑)。

田中/ 歌が下手だったら音楽家の役はできないよ(笑)。

清水/ いや全然気にしてなかったです。もうチョーさんしかいないと思っていたので(笑)。

田中 公平

作曲家。「ONE PIECE」の音楽全般を手掛ける。他の作品に「サクラ大戦」、「かいけつゾロリ」など多数。



田中/ チョーさんが上手い人で良かったですね。「ピンクスの酒」の5巻の歌詞は、伴奏なしのソロでチョーさんが歌うんですよ。4巻まで賑やかに演奏していたのが急に静かになって、あそこで泣かせなきゃいけない。メロディは明るいから、歌では泣かないんですよ。なかなか難しいところなんですけど、チョーさんの声と雰囲気や哀愁のある感じにしていたら、むしろ私が助けられた(笑)。今ではもう「ピンクスの酒」は、チョーさん以外には考えられないですね。

——この曲を聴かれた時、プロデューサーとしてどう思われましたか?

清水/ ありがたいという気持ちですね。長い年月をかけて完成した曲ですから感慨深いものがあります。

田中/ 満を持して登場したという感じがすからね(笑)

清水 慎治

「ONE PIECE」の初代プロデューサー。当時「ピンクスの酒」の制作に携わっていた。現在は企画として参加している。